
ガラスブロックの家

写真：西岡潔



「ガラスブロックの家」と名づけられているが、ガラスブロックは外部から見るができない。打放しコンクリートの壁が周囲に巡り、三方にガラスブロックが積み重ねられた光景を目にするのは中庭に立った時である。ガラスブロックの壁は上階に行くほど後退し、設計を始める半年前に安藤忠雄が訪れたインド・アーメダバードの階段井戸を彷彿とさせる。本作は「住吉の長屋」（1976年）が1979年に日本建築学会賞（作品）を受賞した頃に発表された、作者がガラスブロックを用いた初めての実作となる。空間の構成は住まいらしさから離れ、ガラスブロックを単位に寸法が厳格に規定され、作り付け収納などの細かな設計にも気が配られている。まだ小規模な商業建築と住宅が設計の中心だった30代当時の安藤忠雄に出会える、良好に維持された住まいである。

（倉方俊輔）

英語名：Glass Block House

所在地：大阪市生野区

建設年：1978年 -